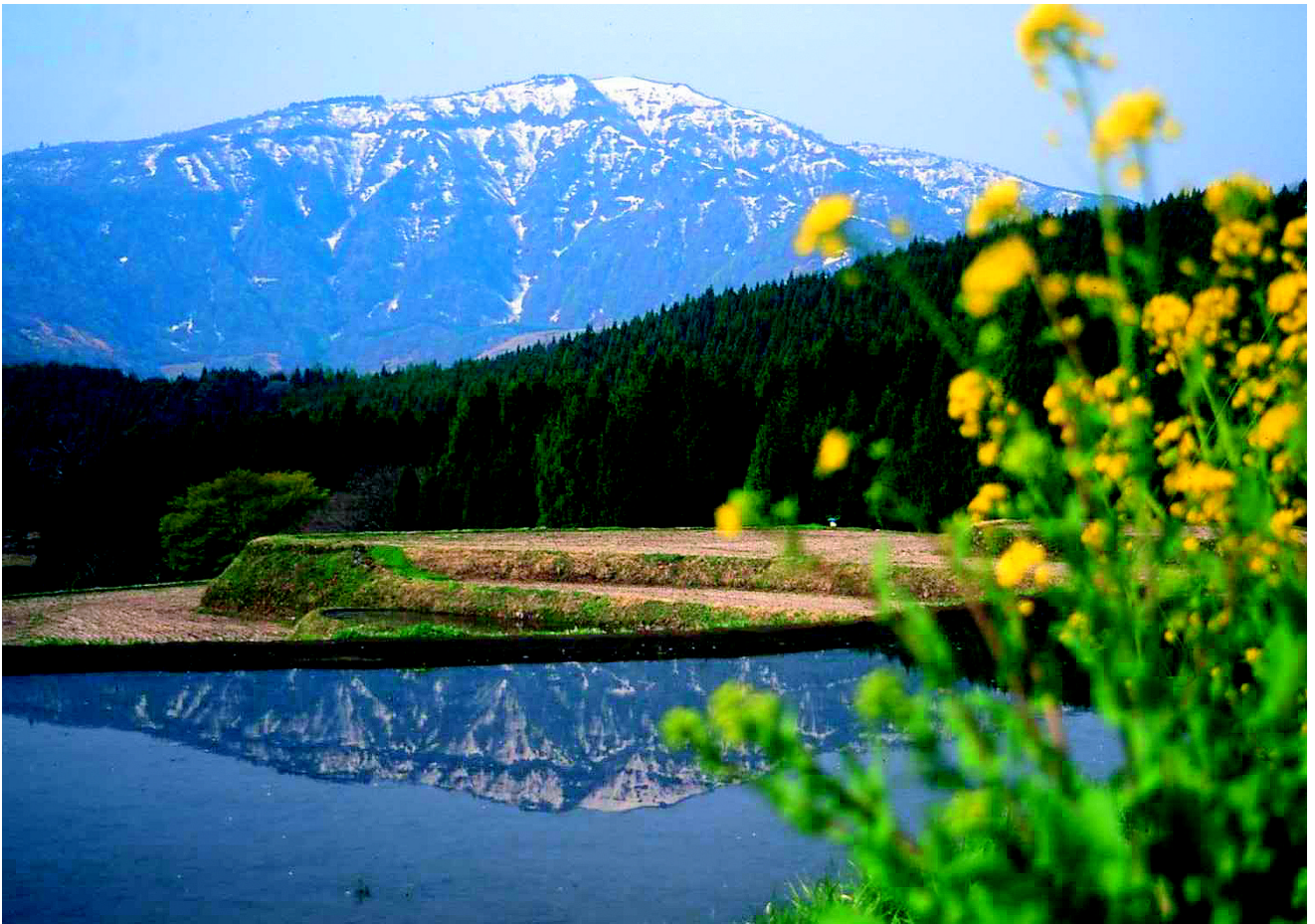


ろっぼうの通信

【発行】
たじま医療生活協同組合
理事長 前田 貞夫

【連絡先】
〒668-0851
兵庫県豊岡市今森465番地の1
ろっぼう診療所 ☎ 24-7007

第100号 2012.3.15



撮影 湊崎博氏

一枚のはがき

『あすは、四年に一度しか
ない二月二十九日

この冬のきびしき、何度
声なき悲鳴をあげたことか
何回も三月のカレンダーを
あけて

春のにおいをさぐった』

山国のくらしにとって

この冬のきびしきは

どんなだったろう

座り直してはがきを読んだ

三月五日、今日は『啓蟄』
けいちつ

冬ごもりの虫が、地上には
い出るころという

氷ノ山を背景に

丹戸のだんだん畑

菜の花のほころびが

春のにおいを伝えてくれる

(森垣)

ろっぽう通信 100号記念特集



創刊号から通信の 編集にかかわって

森垣 修

創刊の頃は、本当の手作りで、自分のワープロで打ち込んで、印刷するといつものでした。

意気込みだけは盛んで、医療生協とはなにかを組合員に知らせること、組合員拡大を進めること、診療所の建設に早く取りかかろうと念頭に編集してきました。

今読み返してみても、その勢いのいいことにびっくりしています。ただスマートさはなく、荒っぽい紙面であったことはお許しただくしかありません。

そんな紙面も編集委員会が確立していくにつれて、みなさんの手で、立派にしていただきました。

「生いき但馬」時代の一番の感動は、守山泰生鳥取生協病院長の講演を成功させたことです。先生は香住町のご出身で、93年8月に香住町夏期大学で講演されたのです。

それを聞きにいった感動し、どうしてもこの講演を医療生協でと考えたのです。

94年9月25日の1000署名達成記念の講演をお願いしたところ、快話いただき、成人病はどうしたらなくせるか。副題は『協同の営み』の医療と医療生協の役割です。

先生は、成人病の考え方として

- ①治療重視から、予防、早期発見へ、
 - ②医師任せから、患者・住民参加へ、
 - ③病棟中心から外来、地域の医療へ。
- これこそ、私たちがめざす医療なんだと、大きな感銘を受けました。

通信の連載ものも、チョウミン入門を皮切りに、但馬の山城、但馬の巨木、ろっぽうの生物・野鳥、山陰海岸ジオパーク、但馬国府の遺跡と続き、食と健康シリーズは20回を越す企画となりました。

運動面では、「医師確保・公立病院守れ但馬シンポジウム」を各病院長の参加で成功させ、民医連新聞のトップをかざりました。

郷地医師の呼びかけで、原爆症認定申請運動をろっぽう

通信を中心にすすめ、おおくの被爆者を激励しました。この運動は今後も続いていきます。

こう見てくると、通信も非

三宅先生の思い出

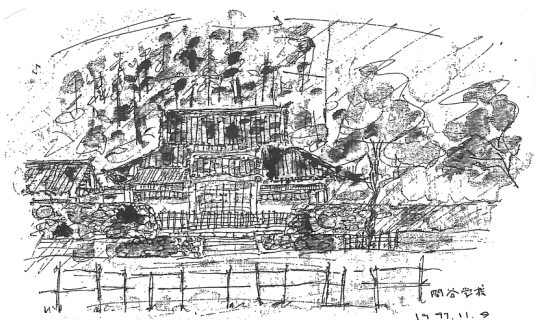
安治川 陽子

「ろっぽう通信」の編集に、理事としてずっと関わりました。

理事以外のメンバーとして、かつて同じ職場に勤めた三宅郁司氏がいつも参加されました。大きな中学校の校長もされた退職後の事でした。私にとつて三宅先生は上司だったので、編集を進めるために遠慮せずものを言っていました。

この方は但馬の自然、遺跡など、いろんなことに詳しい人でした。54号の表紙に記事と盆栽の写真、63号の豊岡三江地域の支部に鶴城と名付けた由来もわかる記事、71号の表紙のこのつりの写真と文、三つの記事は印象に残っています。いずれも事実だけではありません、医療のことだけというのではなく広い知識が伺われる記事です。

編集委員会では、ご自分の関わりのあることは発言して



三宅先生のスケッチ

も無駄口は一切口にされませんでした。

「ろっぽう通信」は、医療生協の機関紙ですから、健康や医療に関することが中心になるのは当たり前ですが、三宅氏のような組合員の才能を生かして広がりのある楽しい記事を増やしてほしいと思っています。

編集委員の思い

小林良子

編集委員とはおはかりで、他の委員の方を支えていただきながら編集に携わってききました。原稿を依頼し、編集していく過程でいつも、筆者の意図が大切にできているかなという気持ちがあります。というのは、一応字数はお知らせしているのですが、書きたいこと、伝えたいことがいっぱいあるせいか、字数がオーバーすることがよくありました。それを紙面に合わせるべく短くする作業をしながら、筆

者の思いを消してしまっているのではないかという不安がありました。

今にして思えば、原稿依頼をする時、時間が許せば直接お会いし、話し合った中で字数を示し文章化していただくとか、時には委員の方でまとめさせてもらうという方法もあったのではないかと考えています。

その後、いろいろ工夫され、充実したろっぽう通信が100号を迎えたことを心より嬉しく思っています。

編集委員のみなさま、ご苦労様です。

蝶の名を二つ三つ覚えたら散歩もまた楽しくなるよ

木下賢司

14年ほど前、「ろっぽう通信」の27号から33号の7回、「ジュニア入門」の手引きを題して連載させていたときですが、今度また、100号の記念号にその時の感想文をこのこと、光栄です。

私と昆虫、特に蝶との関わりはずいぶん長くて、子どもの頃の学校の宿題もそこのテーマで「ボヤヤミ、カブトムシ等々」をあれこれ追っかけてまわっていた時に加えれば、60年は越え、満70歳も真近くなつた今でも虫への思いを消せない自分に驚きめき

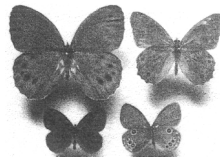
れてしまいます。

そんな私です

から、連載を書いた時の苦労話などあるはずもなくむしろ楽しかったし、今でも懐かしい思い出として残っております。

あの文は、蝶とはどんな生きものかを書いたもので、蛾との違いや名前の覚え方、種類による習性やその幼虫の食草などを書きました。蝶の名前の二つ三つも覚えたら、その日からの散歩がまた少し楽しくなるかと思

い書きました。「ろっぽう通信」が未長く続くことを祈ります。



「歩こう会」と私

高垣圭介



もう10年くらい前になるでしょうが、私に当診療所レクとしての「歩こう会」への参画を促したのは大谷氏である。

初めの頃は低山歩きもこなし、歩こう会といえる体裁でしたが、高齢化が進み歩く距離が少ない場所を選ぶようになりました。それらは但馬の滝、楽山山、山城跡、神社公園、巨木、名水、ジオパーク等を各種資料を調べながら提案してききました。しかし徐々に対象探しも難しくなり、丹後に目を向けることになりました。

まず行ったのは網野町新庄の「霧降の滝」私も初めてなので興味津津、落差20メートル、淨々と流れ落ちる様子はとても印象的でした。このように長い付き合いの「歩こう会」も種々の事情で大谷氏に一任することになり、申し訳ない気持ちであります。今では皆様と一緒に楽しむこと、また私自身も見聞を広められたことを大変ありがたく、また懐かしく思っているところで

「通信」手配りを50名余りで届けています。

新田・中筋支部長 村岡 廣子

今では640部余りを、2日程で「仕分け」できるようになりました。初めのころは、「いつまでかかっているんだ!」とお叱りの声、支部の者は悲しい思いをしていました。「これではやってゆけない!」と数人の役員で組合員さんを訪問しました。「2ヶ月に一度、家の周りだけなら配りま

すよー」と快く引き受けていただきました。年に一回、心ばかりの『手配りさんご苦労さん会』をしています。そんな

に気を使ってもらわなくても、これくらいなら大丈夫ですよ。」と嬉しい声が返ってきます。

今後は、配る部数を少なくして、組合員さんとの会話を楽しくしながら、医療生協をもっと身近なものにできたらいいなあと思っています。

また、ろっぽう診療所や介護事業所のみなさんにも大きな協力をいただき、私たちだけでは配りきれない地区を配ってもらっています。そしてもう一つ、『紙折り機』は仕分けのスピードをグーンと速めてくれました。

先日診療所のカルテボックスが一杯になっているのを見て感無量でした。まだまだ、頑張りたいと思います。

グリーン下「レク」で仲間増やし

神美支部長 田中 千代野

ろっぽう診療所が創立されて16年になる。通信も最初から出されているけど初めのころのこととは覚えていない。2004年に組合員作りとして豊岡支部ができた。その時一部手配りするだけだった。

2005年豊岡支部を分割して校区ごとに支部を作ろうということになり神美支部ができた。神美支部は10部活ある。まず、役員さんを作らなければならぬ。親しい友達に声をかけ14名集まっていた。これで100%手配りとなった。今回あらためて通信を整理してみたら2347号からしかない。

2004年から今の藤井先生に来ていただくまで、5人の先生が変わっている。その頃は組合員増やしにとっても苦労した。藤井先生はとてもやさしいと評判も良く「えがお」の介護事業所も開設され送迎の人氣もあり、また、班会のグラウンドゴルフのおかげで仲間ふやしでも嬉しく思っています。

先日診療所のカルテボックスが一杯になっているのを見て感無量でした。まだまだ、頑張りたいと思います。

「くらし丸ごと応援」の提案

豊岡市会議員 安治川 敏 明

「ろっぽう通信」100号
おめでとうございます。定期発行のご苦勞を担われた編集委員、通信を会員に届けられた支部の方々、発行費用を惜しまれなかつた医療生協役員職員の皆さまに心からお祝いと敬意を申し上げます。私たちも「しんぶん赤旗」と共にお届けしている週刊『民報』とおか』を発行していますので、苦勞している「同僚」としての連帯の共感をもっています。

然と打ち出しています。こうなると、病気で働けず収入を失った人、高齢で孤立した生活を強いられる人、年金が低く思うように療養できない人、介護看護に苦勞する家族、こういう人が増え続けることになりました。

医療生協、診療所の医師・看護師・介護職員たちは、この人たちに向き合う第一線の仕事をしています。医療保険だけではうまく療養できない人、介護認定・給付に乘れない人、病気を治すことに専念できない条件に置かれていてる人たちをどうするか。

そこで記念の提案があります。「くらし丸ごと応援」のネットワークをつくると野田政権の「税と社会保障の一体改革」とは、要するに「消費税を引き上げるが、医療給付、介護給付、年金給付は引き下げる」ということです。マスコミあげて持ち上げている「橋下維新の会」は、国会と地方議会から「税と社会保障の一体改革」批判勢力を追い出す政策を公

政治を革新して制度改善をはかることが根本だが、これには根気、勇気、時間が必要だ。この努力を放棄しない一方、日々困る人たちを支える融通無碍の努力が必要です。

「ろっぽう通信」を受け取る組合員、医師・看護師・介護職員たちは、「くらし丸ごと応援の融通無碍のネットワークを組むことが出来ます。もちろん、解決にはどういう対策が必要か、相談協議のセンターが必要になります。幸い生活相談に経験を持っている市町会議員や経験者が組合員にもいます。

「ろっぽう通信」が連絡相談の窓口にもなり、解決に当たった経験報告の紙面を提供できれば、多くの人たちを励ましネットワークを広げることが出来ます。

医療介護とくらし丸ごと応援のために、「ろっぽう通信」がさらに200号に向けて発展されるように希望します



兵庫民医連 第37回学術運動 交流集会

〈但馬から25名参加〉

2月26日(日) 神戸国際会議場にて、兵庫県下の民医連職員や組合員が集い、日常の活動などを研究発表する交流集会がもたれ、但馬からも4名が発表しました。

ろっぽう診療所の藤井所長は、就任から4年になります。が、診療所での在宅医療9年間のまとめを発表しました。地域での高齢化の進行と、

早期退院をせざるをえない制度のもとで訪問診療になる方が増えています。過去9年間訪問診療した方を対象に調査し、現在豊岡市内で訪問診療件数の一番多い診療所での経験を分析し、到達点や抱える問題点を明らかにしました。

訪問診療の受け入れ医療機関が少ない中で、ろっぽう診療所へ依頼となるケースが増え、訪問件数は月に50件を超えることもある中で、自宅を最期を迎えたいという患者や家族の願いに寄り添った診療活動を展開しています。

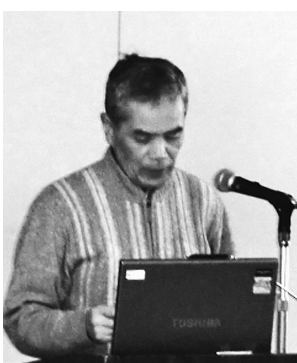
また、医療と介護の連携・24時間体制があるからこそ今の訪問診療活動が展開できていること、今後の課題として、医療や介護の力量アップをめざすこと、訪問診療の依頼をことわることが多くなっており、ろっぽう診療所の医師体制の増員をめざすことが緊急の課題であることなどを述べました。

参加者のなかから、緊急な在宅で困ることがある場合の医療機関の連携があるかどうかという質問も出ていました。

ろっぽう診療所の彦坂看護師長は、近年利用数が増加している予防接種について発表

しました。診療所の藤井所長が小児科医であること、職員による学習会を経て、髄膜炎や、ポリオなどの予防接種に対し前向きに対応したこと、若い世代の子育て支援講座の開催、看護師による予防接種のプラン作りなどが好評で、医療生協やろっぽう診療所の認知度も高まり、年々接種者が増加していることなどを発表しました。

訪問入浴サービスの岡野所長は事業設立してからの6年間を振り返っての報告をしました。赤字が続ぎ事業の存続も危ぶまれる状況から、姫路医療生協への研修参加・勉強会開催を契機に職員一人一人が前向きになり、少しずつ収益も上がり赤字転換するまでになった経過を発表しました。本部事務局の和田事務次長は、昨年度達成した3千人組合員以後の活動と展望について昨年の仲間ふやしの取り組みについて発表しました。



2012年度 第17回通常総代会の公告

2012年2月25日
たじま医療生活協同組合

2012年度第17回通常総代会の開催をご案内いたします。

記

と き：2012年6月30日(土) 13時30分から17時

と ころ：但馬空港ターミナルビル 多目的ホール

- 議 題：第1号議案 2011年度のまとめと2012年度の事業と運動のすすめ方
 第2号議案 2011年度の決算報告及び監査報告承認の件
 第3号議案 2012年度予算承認の件および役員報酬承認の件
 第4号議案 役員選任の件
 第5号議案 議案議決効力発生承認の件

以上

総代選出 選挙区・定数の確認公告 3月31日現在での組合員登録者(家族組合員は不可)
 受付期間：各支部総会の前日まで

支部名 地域名	新田 中筋	神美	鶴城	亀城	北西	日高	出石 但東	きたみ	やぶ	朝来	香美 新温泉	職員	合計
総代数	20	9	8	10	12	9	5	6	6	4	4	7	100

地域区分理事候補の推薦に先立っての公告

- 理事選任に当たっては定数を全区区分5名、地域区分20名〔旧豊岡市(港地区を除く)・北但地域(港地区以外)の旧豊岡市を除く)・南但地域〕とします。
- 区域別推薦委員会の推薦を受けることを希望する組合員は申し出を事務局で受け付けます。
 申し出期間は4月14日(土)までとします。

今年1月から訪問看護ステーション「えがお」の看護士チームの一員となりました。年女で三児の母です。看護師職として働くのは久しぶりではありますが、体力、気力はまだまだ自信があ



平井美千代
(訪問看護師)

職員紹介

今後は更にたじま地域に根をはった活動に大きな期待をこめ、たじま医療生協の発展を誓い合う場となりました。



藤井高雄先生の還暦を祝う会 (理事会忘年会)

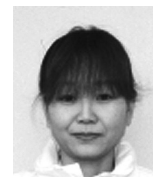
ろっぽう診療所の藤井先生の還暦を祝う会が12月23日(金)に市内のホテルで開催されました。

この度、1月より訪問入浴のオペレーターとしてお世話になっております。少しでも人のためにお役に立ちたい、気持ちよく入浴していただきたいと思いい日々働かせていただいています。これからも、お風呂に入れたげよう精一杯努力していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



脇 芳江
(訪問入浴オペレーター)

提供していただけるようにがんばりますのでよろしくお願いたします。



村上奈緒美
(訪問看護師)

ります。スタッフの方々、また地域の方々にも早く浴け込んで少しでもお役にたてるようにがんばります。よろしくお願いたします。

ろっぽう診療所 診療体制

内 科・小児科・リハビリテーション科
 電話 24-7007

	月	火	水	木	金	土
午前診療	○	○	○	○	○	○
9時~12時						
午後診療	(往診)	(往診)	(往診)	(往診)	(往診)	
2時~4時						
夜間診療			○		○	
5時~7時						

介護事業所 えがお

〒668-0852 豊岡市江本396-1 101号・102号

- 居宅介護支援事業所えがお TEL 0796-24-7013
FAX 0796-24-6154
- 訪問看護ステーションえがお TEL 0796-24-6144
FAX 0796-24-6154
- ヘルパーステーションえがお TEL 0796-24-4731
FAX 0796-24-4733
- 訪問入浴サービスえがお TEL 0796-24-4731
FAX 0796-24-4733

シリーズ たじまを調べる②

＜但馬国府の遺跡 ①＞ (但馬国府・国分寺館長)

川岸遺跡(豊岡市日高町松岡)その② 加賀見 省一

人形などの木製祭祀具は、自分の身についた罪や穢を人形に移し、それを流れに投じることで身を清めるといふ呪いの道具です。

平城京や平安京などでは、天皇や役人たちが祓所(はらえど)と呼ばれる水辺に集まり、祝詞の後、水辺に流す祓を行ったことがわかっており、6月と12月の晦日に行われる大祓はその代表的なものです。

地方行政機関である国府には、都から派遣された国司とよばれる数名の貴族が派遣されています。国司たちは都で行われた行事を国府で行うようになります。但馬では、祓所と考えられる遺跡が多く、個人の祓だけでなく、施設内に災いや穢の進入を防ぎ、また追い払う役割も果たしたのでしょう。

川岸遺跡から見つかった人形のなかには、写真(下)のように顔や頭部を丁寧に墨書きしたものもあり、まさに国司の存在をうかがわせるものでした。この人形の発見で、川岸遺跡が但馬国府の祓所と直感することができました。これが但馬国府発見の第一歩です。(続く)



発掘調査風景



出土した人形

心温まった 「蕎麦食べよう会」

やぶ支部 木村次男



1月24日、年金者組合養父班共催で、19名の参加で開催。やぶ支部長の片山さんの温かい「コーヒー」を頂きながら自己紹介で始まりました。

まず、二・八蕎麦に挑戦。4セットの用具はフル回転。参加者は作り始めると「水はどのく

ら〜」「暖かい〜」「厚さは?」「切り方は?」と実に賑やか。そのうち多種多様な蕎麦?ができあがり、川戸さん中心に準備のかき揚げも揚がり、大鍋に湯がわき上がるのを待ってよいよ蕎麦ゆで。ざるに取り上げると先にテーブルに陣取った男性陣は待ちきれず「すすりこむ。将に「打ち立て」「ゆで立て」作者不明の蕎麦でも「おいしい!」との声。

参加者から「先ず、みなさんの心の温かさに感激…蕎麦はもちろん、かき揚げ、手づくりのフッキーなどおいしく頂きました。大変楽しく、少し心豊かになりました」と、また参加させて下さい。」との感想でした。

「私の街の健康づくり」 健康づくりチャレンジに参加して

鶴城支部 稲葉 淳

健康づくりの一環として「健康づくりチャレンジ」が呼びかけられ、支部でもはなしあってきました。

まずは自分からやってみよう、挑戦しました。先生から、6月に脂質異常で治療を要するとして指摘され、まさに、かくれ肥満のメタボ予備軍でした。週3回以上は30分のウォーキング、ビールは金曜日禁曜日、夜間の間食はしない、これが目標でした。

食事療法は、家族の協力もあって、玄米食や、カンテンを料理に入れたり、油ものは少なめ

にしてみました。

また、ウエルストークを活用して月15〜16回は、1時間、マシンでインターバル走法をしてみました。その中で腕の筋肉量と足の筋肉量の相当のアンバランスがあり、ライフスタイルに問題があることが分かりました。全体として8割は達成できたと思いますが数値は変化なし、増加しなかったことを良しとしながらも、目標残の2割が困難な

ラージボールで班作り

神美支部



ラージボール班会の様子

壁です。ここを乗り越えなければ、本物にならないことがわかりました。

取り組みながら思ったことは、やっぱり健康づくりは、継続することが大切です、すぐに目に見えないことも多く挫折しそうですね。組員の仲間をもつと誘いあいガヤガヤ言いながらやった方が楽しいし、中間の節々からの所で、医療スタッフの助言や励ましもあったら、もっと中身の深いものになるのではないかと思いました。

みなさん、ラージボールって知っていますか。ピンポン玉よりひと回り大きな玉を使っている卓球のことです。5年ほど前から神美地区の組合員が八社宮の組合員、岡田堅さん、さかえさんの元大工小屋を使って始めました。広い小屋に、2台の卓球台を置き、月2〜3回の割合で楽しんでいきます。今までは、班ではありませんでしたが、神美地区の班活動としてやっています。ある80歳代の組合員は「数年前、足が痛くて歩けなかったのに今はラージボールする日が待ち遠しくてたまりません汗もかいて健康にもなっています。」

と嬉しそうに語っていました。途中には、お茶やお菓子での語らいの時間もあり、それもまた、大切な意見交換の場になっています。興味のある方は一度参加してみてください。

和田邦子